

## 巻頭特集

# 「地元で輝く会計士」



税理士法人アクシス

代表社員 公認会計士・税理士

**川人 広平**

東京大学経済学部在学中に論文式試験合格。新卒でPwC税理士法人へ入社。その後、株式会社経営共創基盤(IGPI)を経て2019年1月より税理士法人アクシスに入社。2019年5月代表社員就任

川人税理士事務所  
岸税理士事務所

## 税理士法人を経て 経営コンサルタントへ

私は徳島で生まれ、高校までを過ごしました。父が開業税理士で、将来的には父の仕事を引き継いで地元のために貢献したいと思っていました。そのため、大学卒業後の就職先は監査法人ではなく税理士法人を選びました。約3年間、税理士法人で勤務し、修了審査に合格。税務の基礎を一通り経験した私は、「経営」に携わる経験を積みたいと考えるようになりました。当時の選択肢は3つありました。1つ目は、事業会社へ転職し会社の中から経営に携わること。2つ目は、経営コンサルタントとして複数の会社のマネジメントに携わること。そして、3つ目は起業することです。熟考した結果、最も早く経営に携われる道「経営コンサルタント」の道を選び、株式会社経営共創基盤(IGPI)に入社しました

### 問題解決のための「実行力」

IGPIは、戦略の実行までクライアントと協働してサポートするというコンサルティング会社です。コンサル会社や投資銀行は、「戦略だけ」「財務だけ」と対象を絞ることが多いですが、戦略と財務の両方を検討対象にするスタイルである点が実践的で魅力を感じ、転職を決めました。そのため、扱うテーマは「なんでもアリ」。営業戦略立案から業務効率化、コスト削減、提携交渉など様々な経験を積ませていただきました。その中で、資金繰りのシミュレーションやグループ内M&Aの検討なども必要で、会計士の知識は役に立ちました。

「経費削減」というと簡単そうに聞こえま

すが、いざやるとなると細かい分析も必要になりますし、色んな抵抗や「できない理由」も噴出します。そもそも検討を始めるために、業務の効率化や組織の見直しが必要になることも多くあります。それらに優先順位を付け、一つ一つクリアしながら実行していくのはとても大変なことです。この仕事を通じて、「多くの会社では戦略も重要であるが、“当たり前のことをきっちりやり切る”実行力が課題となっていることも多い」ということを実感しました。

### 会計士はキャリアの 選択肢が広い

公認会計士のキャリア形成を考えた時、方向性は2つあると思います。1つは、監査や税務、アドバイザー等の特定分野でスペシャリストを目指す道。もう1つは、経営人材としての生き方です。現在、私は80名規模の税理士法人の代表として会計・税務の枠に限らず、お客様の「やりたいことの実現」に実行まで寄り添える会社になろうと、仕組づくりに取り組んでいます。一見すると前者ですが、私は後者の生き方だと思っています。自分で枠を決めずに動くことができるととても面白いです。

監査法人では残業のあり方が見直され、専門職の在宅勤務にも理解が示され始めています。税務やアドバイザー業務で活躍する会計士、組織内会計士も年々増加傾向にあります。そして、私のように地方で働く会計士も増えてきています。とにかく、会計士はキャリアの選択肢が広い。本誌(CPATIMES)に掲載されている会計士は、皆さんのロールモデルとして大変参考になるのではないのでしょうか。

